

平成23年1月14日

ニッケ グループ

平成22年11月期

(平成21年12月～平成22年11月)

決算説明資料



ニッケ（日本毛織株式会社）

本資料中の業績予想、見通しおよび事業計画についての記述は、本決算発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、記載された将来の業績を保証するものではありません。

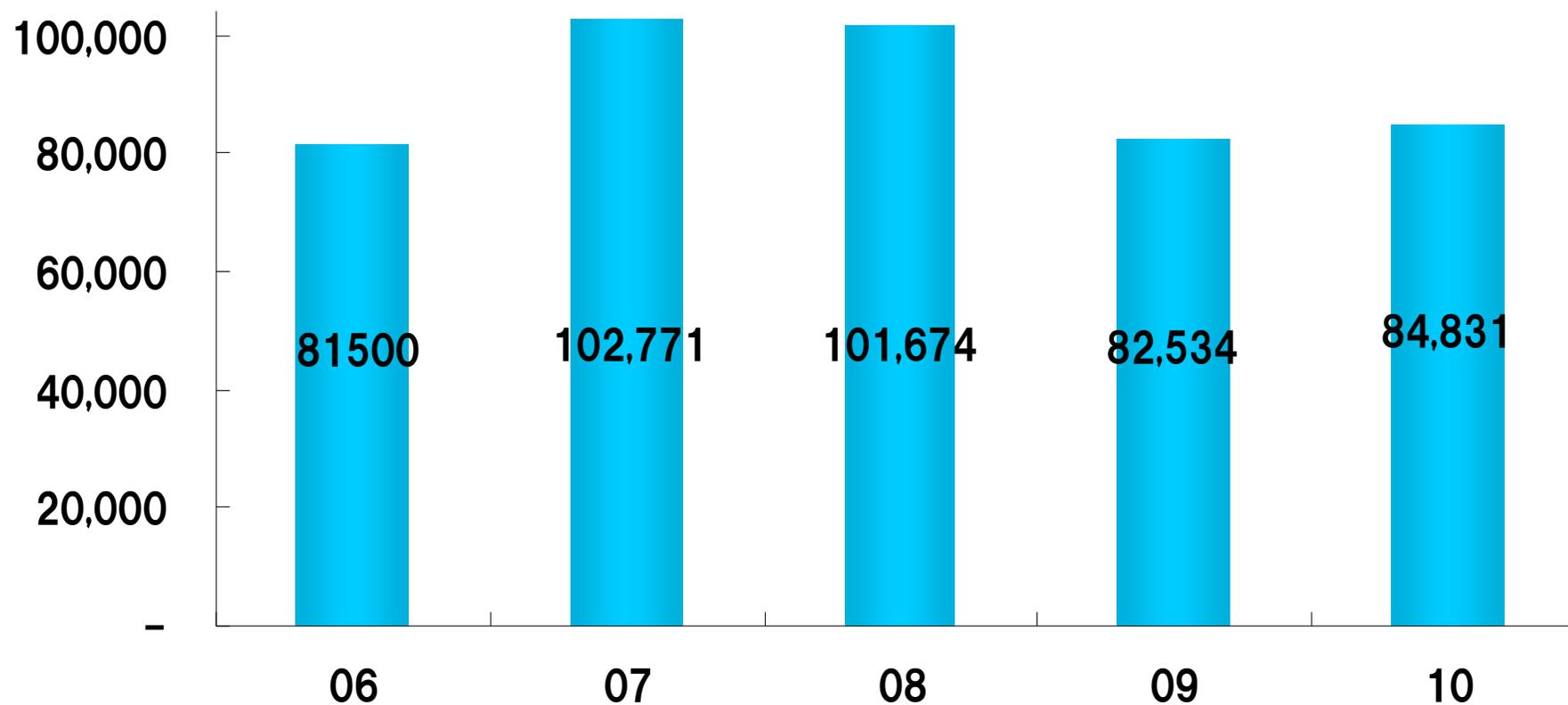
連結業績概要

	06年	07年	08年	09年	10年
売上高 (百万円)	81,500	102,771	101,674	82,534	84,831
営業利益 (百万円)	6,052	6,709	6,984	2,799	4,617
経常利益 (百万円)	6,519	7,004	6,945	2,451	4,733
当期純利益 (百万円)	4,143	4,380	4,035	797	2,148
1株当たり 当期純利益 (円)	50.23	53.08	49.22	9.90	26.81

連結業績概要

売上高

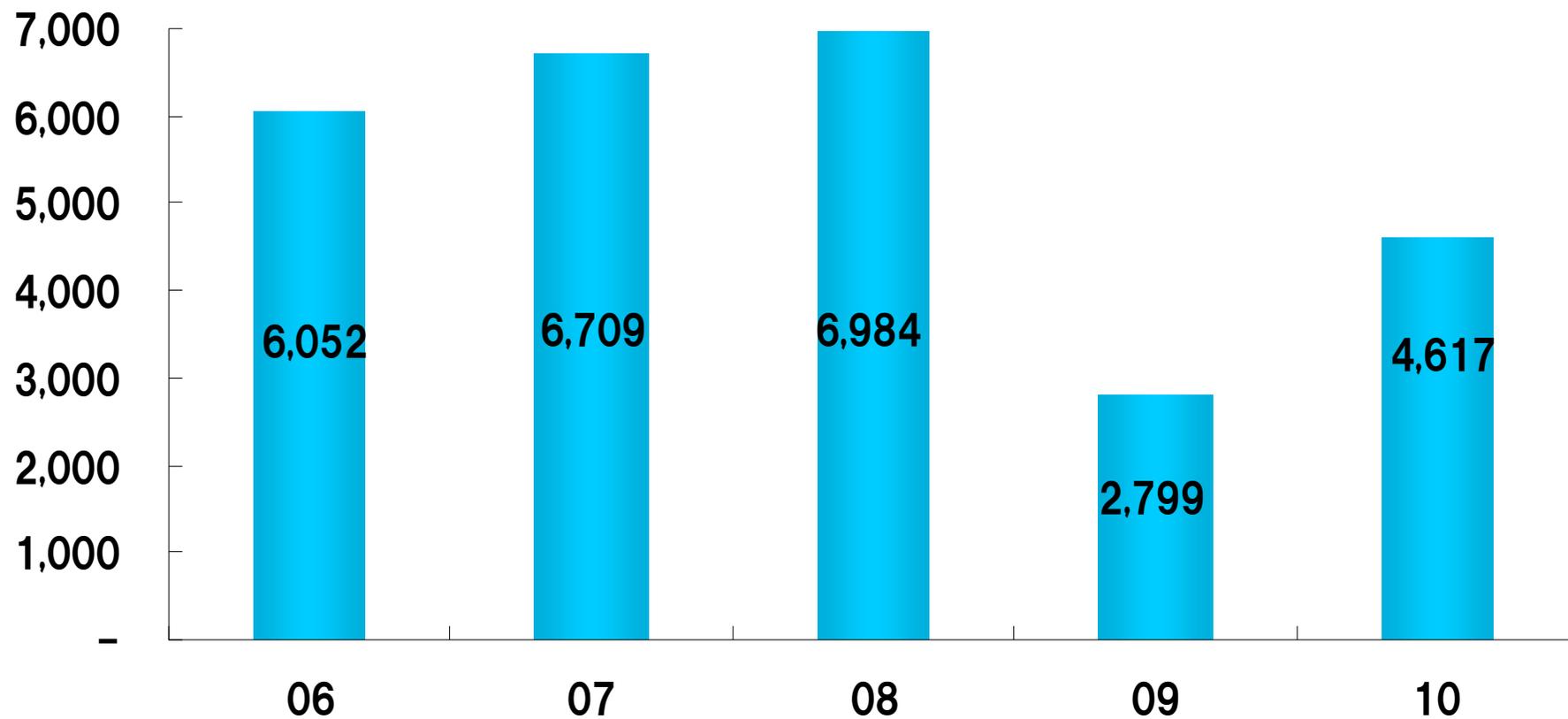
(百万円)



連結業績概要

営業利益

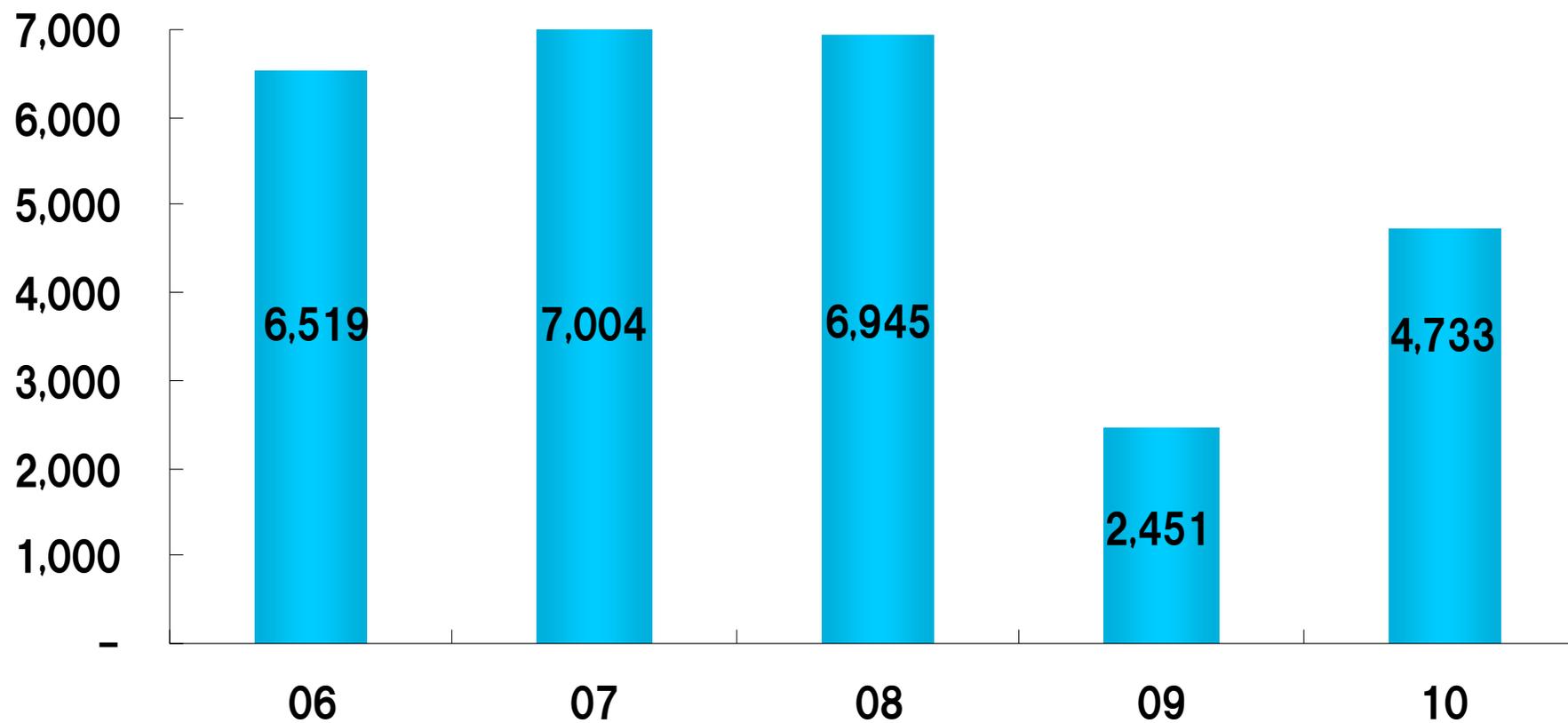
(百万円)



連結業績概要

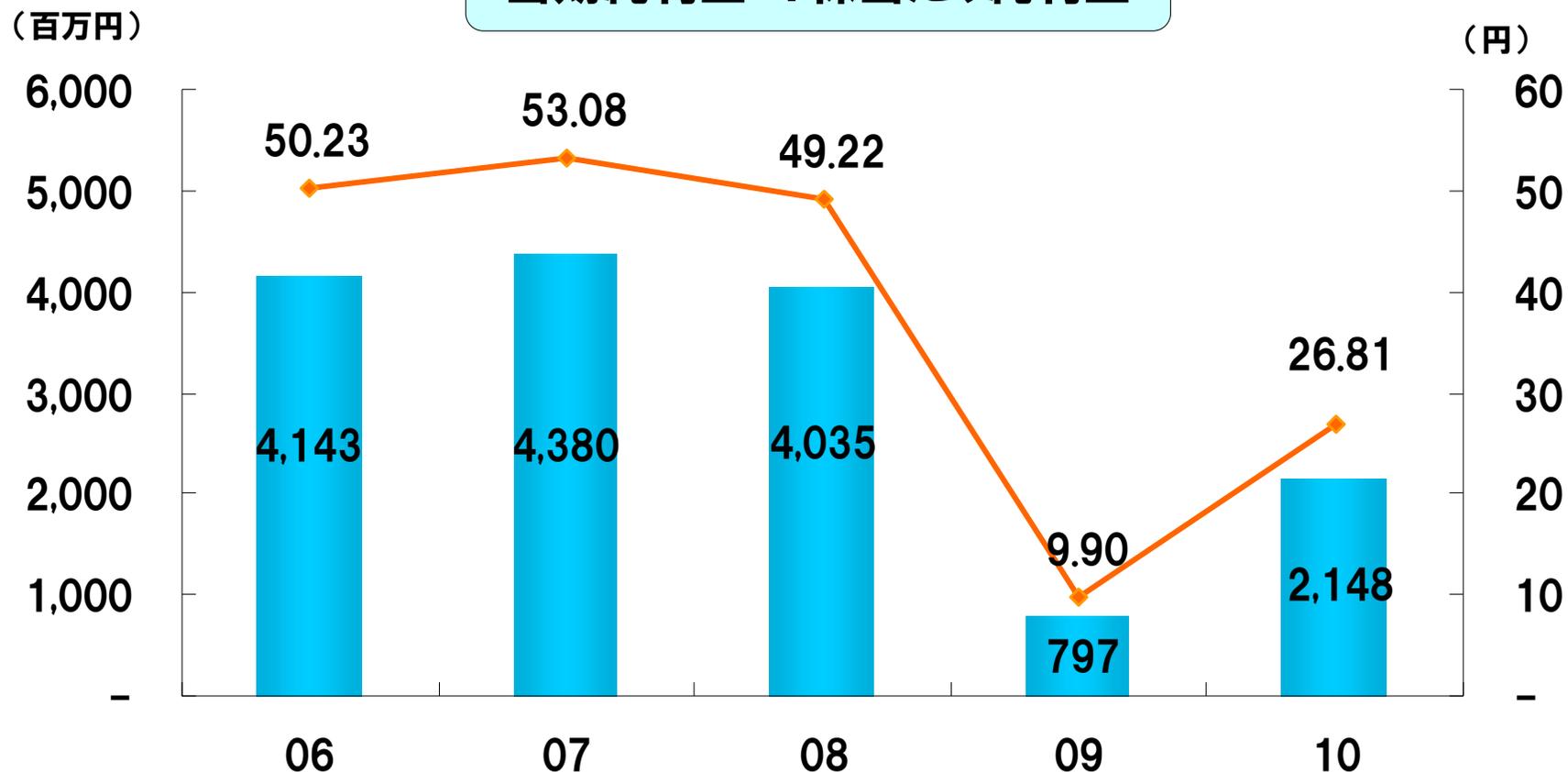
経常利益

(百万円)



連結業績概要

当期純利益・1株当たり純利益



連結業績概要

		09年	10年	増 減	
				金 額	%
売上高	(百万円)	82,534	84,831	2,296	2.7
営業利益	(百万円)	2,799	4,617	1,817	64.9
営業外損益	(百万円)	-348	117	465	-
経常利益	(百万円)	2,451	4,733	2,281	93.0
特別損益	(百万円)	-1,000	-437	563	-
法人税等	(百万円)	617	2,022	1,405	-
少数株主損益	(百万円)	-36	-125	-85	-
当期純利益	(百万円)	797	2,148	1,350	169.3
1株当たり 当期純利益	(円)	9.90	26.81	16.91	-

◆売上高

衣料繊維事業における販売数量の落ち込みも資材事業、エンジニアリング事業の業績回復及びコミュニティサービス事業の事業拡大により増収。

◆営業利益

売上の回復により増益となる。

◆当期純利益

営業利益の増に加え、営業外損益及び特別損益が改善したため大幅な増益となる。

連結業績概要

	06年	07年	08年	09年	10年
総資産 (百万円)	138,718	137,969	126,642	116,962	113,021
純資産 (百万円)	78,115	77,825	71,538	69,875	68,998
1株当たり 純資産 (円)	929.77	926.56	870.77	854.35	863.44
自己資本 比率 (%)	55.3	55.4	55.7	58.9	60.3
ROE 自己資本利益率 (%)	5.4	5.7	5.5	1.1	3.1

連結業績概要

	09年	10年	増減
総資産 (百万円)	116,962	113,021	-3,941
純資産 (百万円)	69,875	68,998	-877
1株当たり 純資産 (円)	854.35	863.44	9.09

◆総資産

主に短期運用目的の有価証券及び衣料繊維の棚卸資産の圧縮などにより39億円減少。

◆純資産

利益剰余金は増加も、自己株取得の実施、その他有価証券評価差額金の減少などにより8.7億円減少。

キャッシュ・フロー

	06年	07年	08年	09年	10年
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,100	3,252	7,278	10,435	9,194
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	362	-81	-3,735	-5,693	-1,098
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	-5,846	-4,340	-3,935	-3,447	-6,936
現金及び現金 同等物期末残高 (百万円)	11,935	11,112	10,698	11,916	13,059

キャッシュ・フロー

	09年 (百万円)	10年 (百万円)
営業活動による キャッシュ・フロー	10,435	9,194
投資活動による キャッシュ・フロー	-5,693	-1,098
財務活動による キャッシュ・フロー	-3,447	-6,936
現金及び現金 同等物期末残高	11,916	13,059

◆営業活動によるキャッシュ・フロー

売上債権の増加や、たな卸資産の増加等。

◆投資活動によるキャッシュ・フロー

有価証券の取得による支出の減少や、固定資産の取得による支出の減少等。

◆財務活動によるキャッシュ・フロー

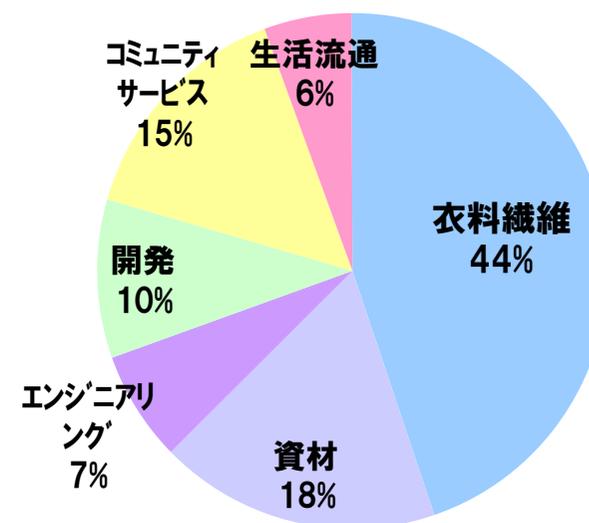
長期借入れによる収入の減少等。

セグメント別業績の概要

セグメント別売上高

セグメント	09年 (百万円)	10年 (百万円)	増 減	
			金 額	%
衣料繊維	40,835	37,975	-2,860	-7.0
資材	13,330	15,062	1,732	12.9
エンジニアリング	4,514	5,825	1,311	29.0
開発	7,822	8,438	616	7.8
コミュニティサービス	11,256	12,749	1,493	13.2
生活流通	4,773	4,779	6	0.1
売上高計	82,534	84,831	2,297	2.7

10年セグメント別売上高比率

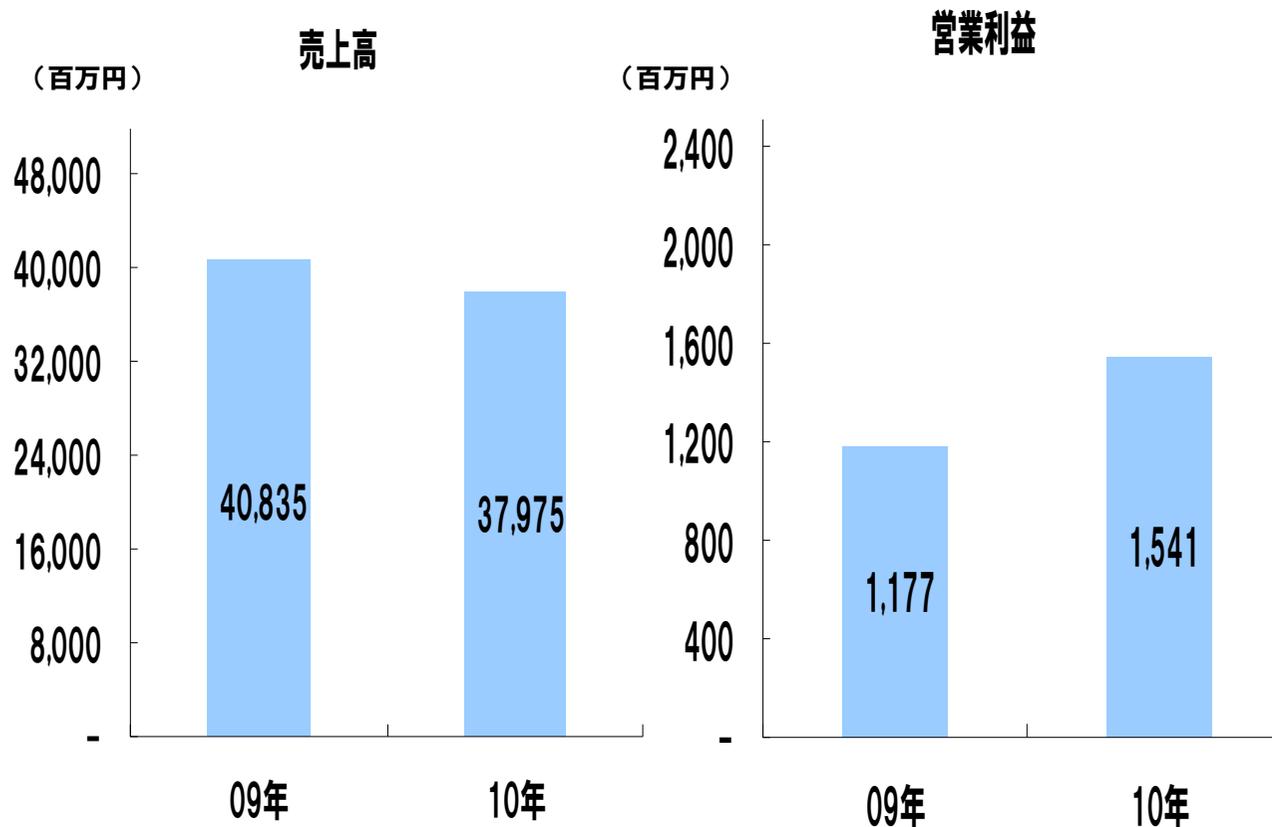


セグメント別業績の概要**セグメント別営業利益**

セグメント	09年 (百万円)	10年 (百万円)	増 減	
			金 額	%
衣料繊維	1,177	1,541	364	30.9
資材	271	580	309	114.0
エンジニアリング	-691	-61	630	91.1
開発	2,989	3,458	469	15.6
コミュニティサービス	369	366	-3	-0.8
生活流通	12	61	49	408
グループ本社	-1,329	-1,331	-2	-
営業利益計	2,799	4,617	1,818	64.9

衣料繊維事業の概要

<事業内容>毛糸・毛織物・縫製品等の繊維製品の製造・販売



◆売上高

売糸は、販売価格が前年より上昇し、織物用糸では増収。横編み需要が低調であった編物用糸は若干の減収。

学校向け制服用素材は、景況感の悪化に伴い、減収。

官公庁向け制服用素材は、積極的な企画・開発提案が受注に結びつき、増収。

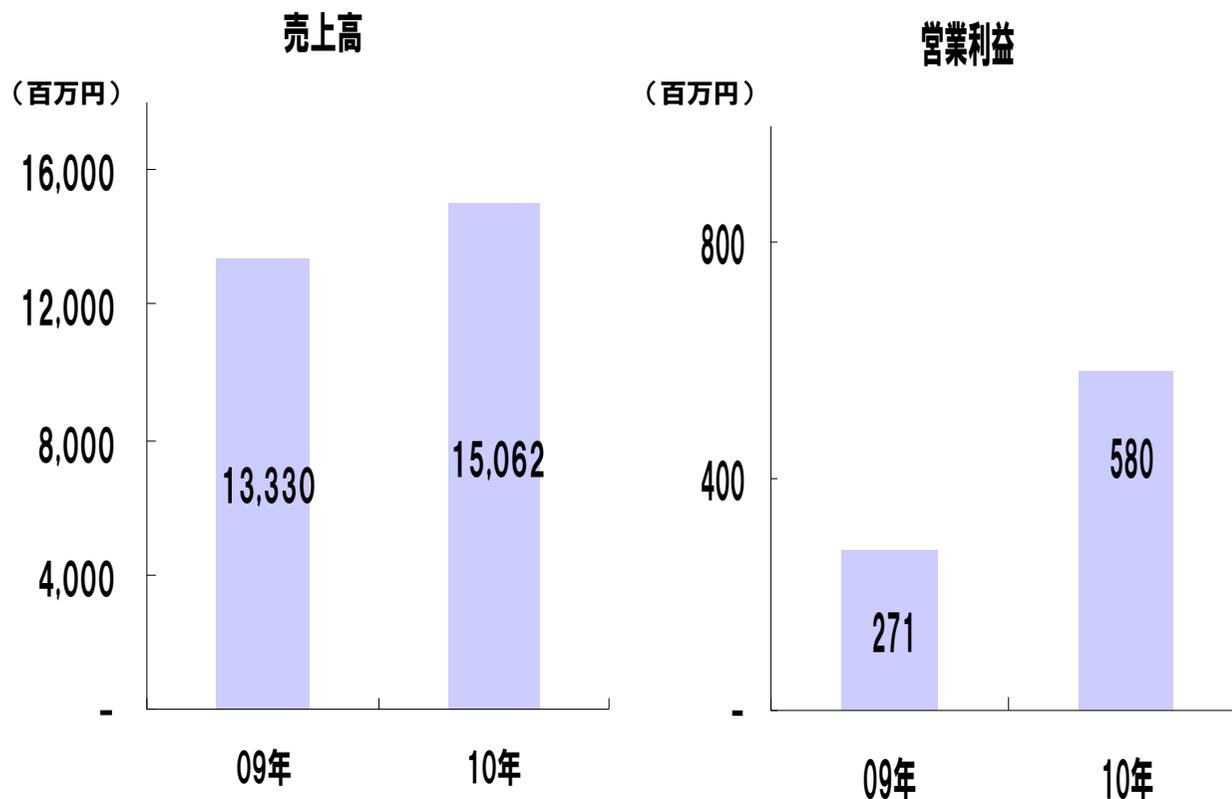
一般企業向け制服用素材は、大口物件の減少が影響し、減収。

メンズ・レディース向け素材並びに衣料製品は、市場の冷え込みが著しく、減収。

海外向け販売は、米国での低価格化による他繊維へのシフト、欧州での市場冷え込みによる買い控えの影響などを受け、減収。

資材事業の概要

＜事業内容＞毛布・カーペット・不織布・フェルト等の繊維製品、
テニス及びバドミントンガット等・釣糸・産業資材の製造・販売



◆売上高

産業用資材は、フェルト・不織布においては空気清浄機用フィルター、家電自動車用緩衝材・吸音材、OA機器用不織布、楽器用フェルトなどが好調に推移し、大幅な増収。

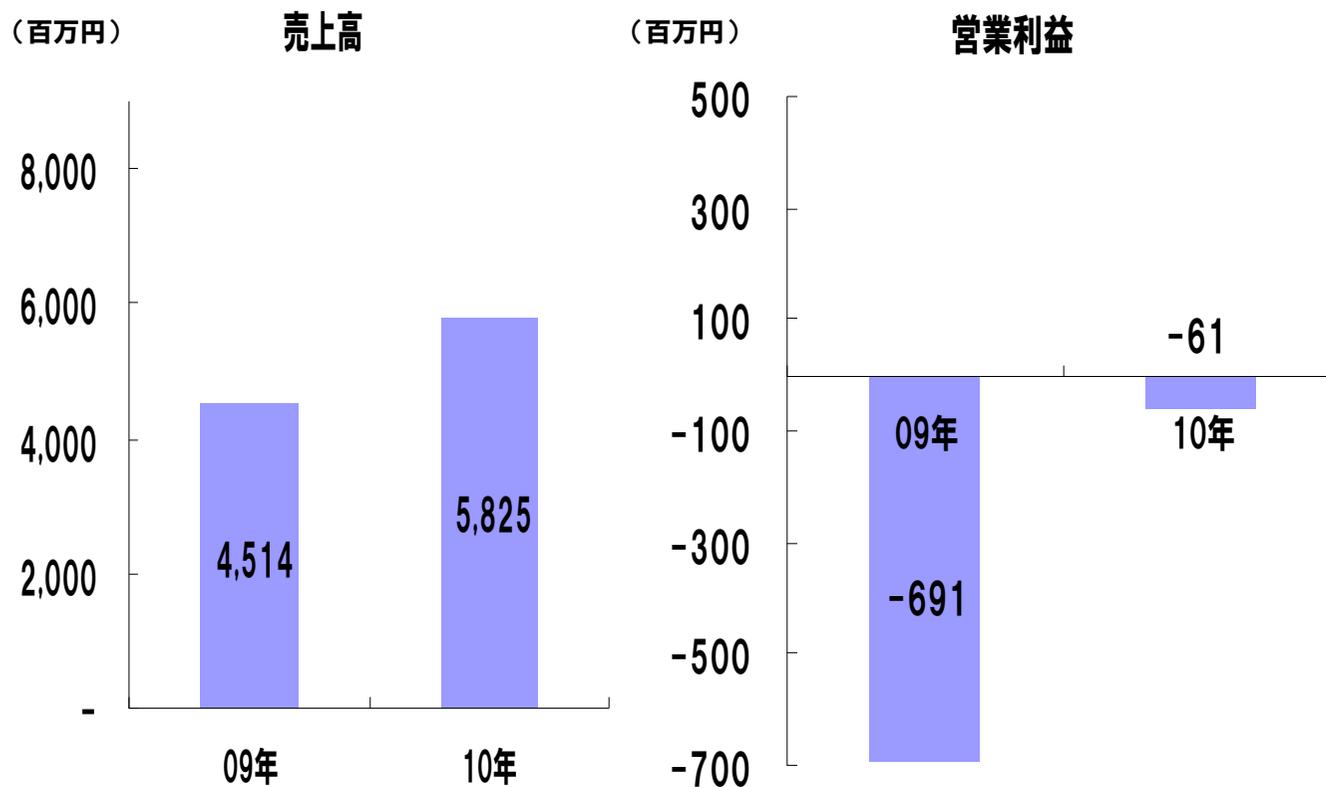
糸・紐においても、車輛資材・電気資材向け需要が好調で、大幅な増収。

カーペットは、ホテルなどの業務用カーペットが改修工事の先送りなどで厳しい状況が続いたものの、テニスサーフェスの需要回復と新商品の受注が寄与し、微増収。

生活用資材は、ラケットスポーツ用品においては、国内販売は減収も、OEM生産の受注が拡大した海外販売が増収となり、全体としては前期並み。釣糸は海外OEM生産の受注活動が貢献し、前期並みを維持。

エンジニアリング事業の概要

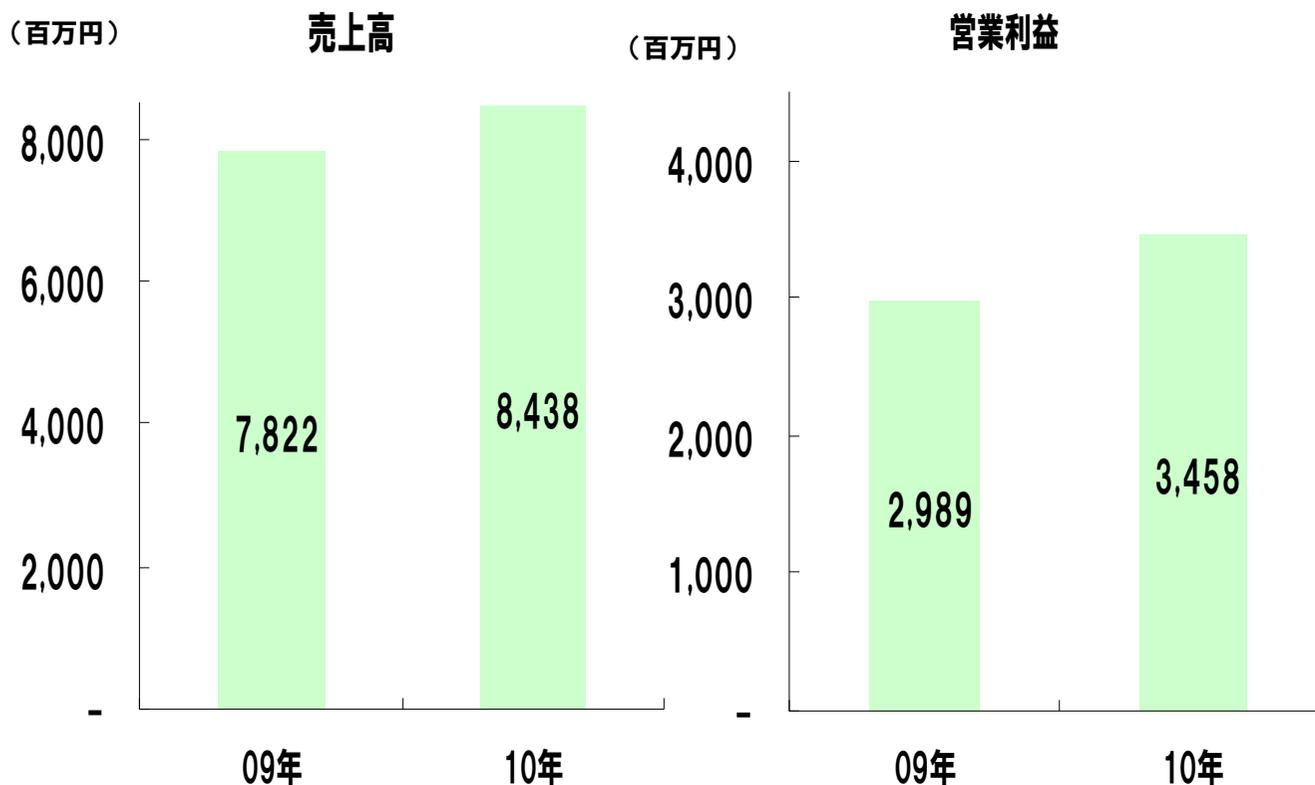
＜事業内容＞産業用機械の製造・販売、電子・電気計測器及び
制御装置の 製造・販売



◆売上高
汎用機器（電源・計測器、画像検査機）が期初より好調を維持し、また主力の専用機（特定企業向け別注機器）も後半には売上に大きく貢献したため、全体では増収。

開発事業の概要

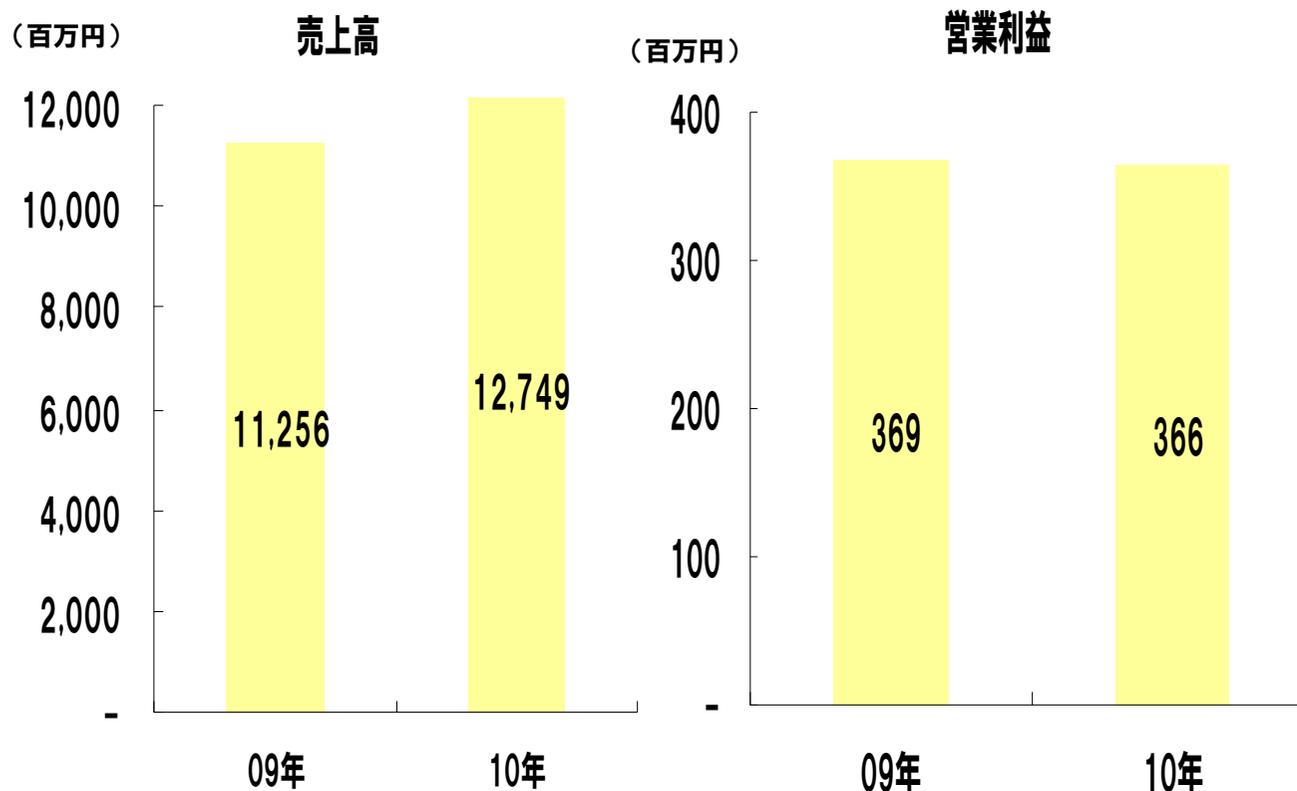
**<事業内容>ショッピングセンターの賃貸事業、
不動産の建設・販売・賃貸**



◆売上高
 商業施設運営事業は、「ニッケパークタウン」が減収となったものの、「ニッケコルトンプラザ」がリニューアル効果により入館者数および売上を順調に伸ばしたことにより、全体では増収。
 不動産事業は、経済環境悪化による既存テナントの撤退および賃料引下げの影響を大きく受けたものの、一昨年10月に取得した大阪市内オフィスビルの賃貸事業および宅地販売などが寄与し、全体では増収。

コミュニティサービス事業の概要

**<事業内容>ゴルフ・テニス・乗馬等のスポーツ事業、
携帯電話の販売、介護サービス事業**



◆売上高

スポーツ事業は、インドアテニススクールは新規入会者の獲得が難しく、ゴルフは、コースおよび練習場での入場者数・単価が減少したものの、グループ会社の決算期変更の影響により、増収。

介護事業は、デイサービス事業・小規模居宅介護事業ともに利用者が順調に伸びたことにより、増収。

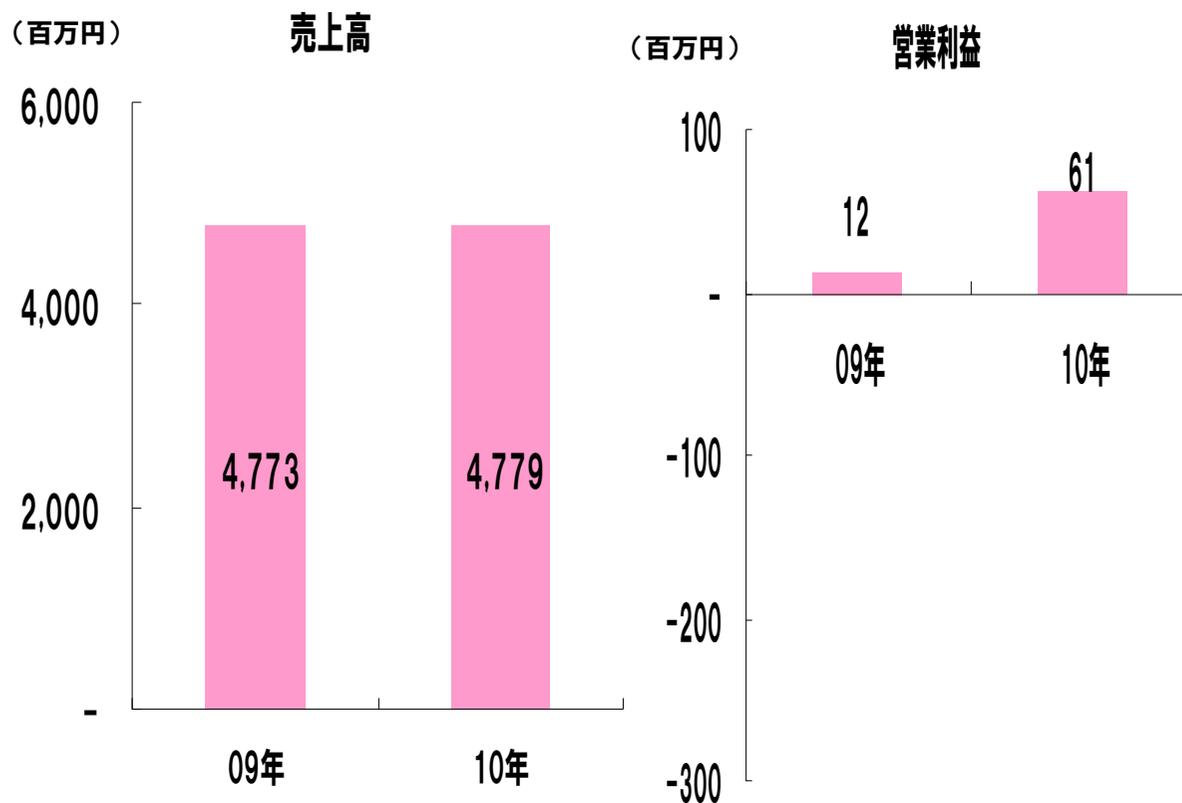
アミューズメント事業は、個人消費の冷え込みが厳しく、減収。

携帯電話販売事業は、消費者の買替えサイクルが一巡し、販売台数が伸びたことにより、増収。

新規事業では、ビデオレンタル事業の開始やキッズ向け屋内型会員制遊戯施設事業・アイスクリーム事業の新規出店により、増収。

生活流通事業の概要

<事業内容> 寝装品・馬具・乗馬・ペット用品・ペットフード の製造・販売



◆売上高

寝装品、イージーオーダー、手編毛糸とも、一般消費者の消費意欲が回復せず厳しい環境下であったものの、グループ会社の決算期の変更の影響により、増収。

馬具、乗馬用品は、国内外の景気低迷が続くなか、ほぼ前期並みを維持。

ペットフードは、消費者の低価格志向の強まりにより、減収。ペット用品は、問屋の在庫圧縮と消費者の買い控えにより、減収。

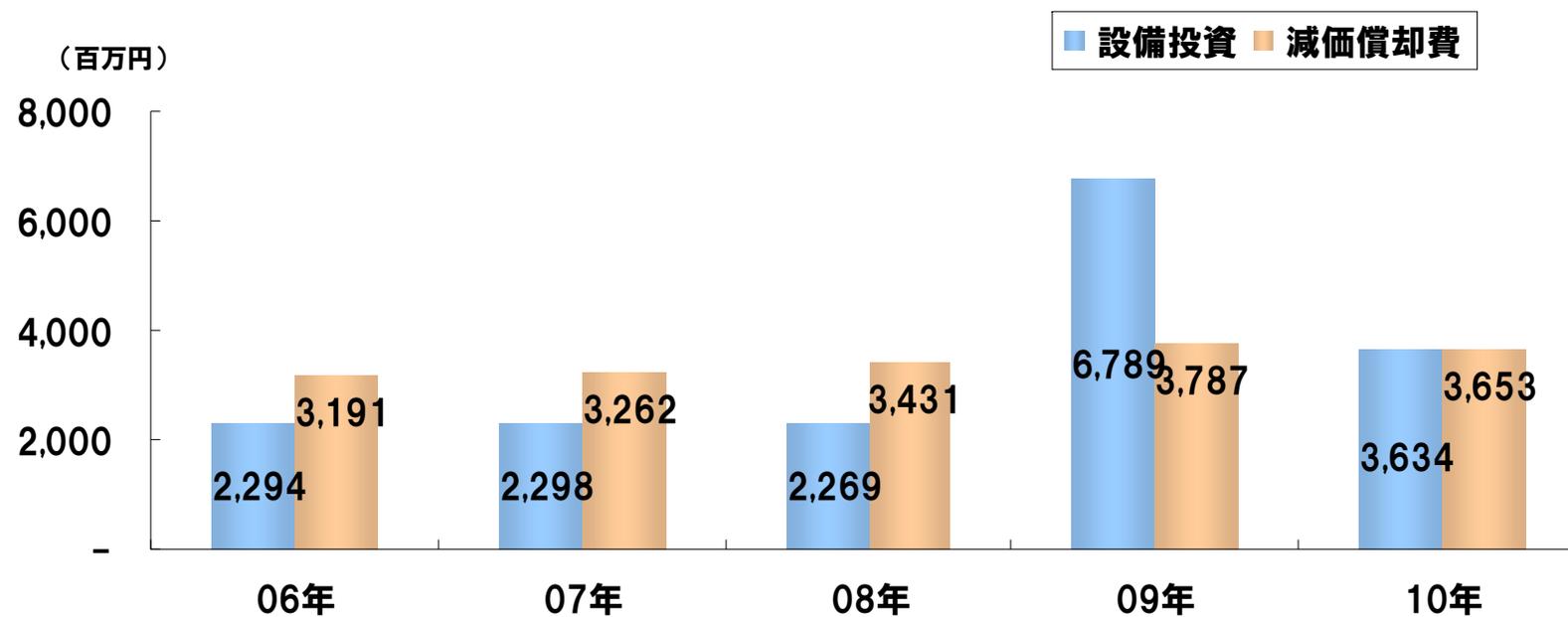
業績予想

	09年	10年	2011年予想	増減
売上高 (百万円)	82,534	84,831	91,000	6,169
営業利益 (百万円)	2,799	4,617	5,500	883
経常利益 (百万円)	2,451	4,733	5,450	717
当期純利益 (百万円)	797	2,148	3,000	852
1株当たり 当期純利益 (円)	9.90	26.81	37.97	11.16
配当 (円/株)	18	18	18	-

セグメント別業績予想

セグメント	2011年予想	
	売上高(百万円)	営業利益(百万円)
衣料繊維	39,700	2,200
資材	15,600	850
エンジニアリング	7,000	160
開発	7,900	2,920
コミュニティサービス	16,150	520
生活流通	4,650	30
グループ本社	-	-1,180
計	91,000	5,500

設備投資・減価償却費



対処すべき課題

当社グループは「ニッケグループ中長期ビジョン(NN120ビジョン)」の実現に向けて経営の基本戦略が共通する6つの事業領域・全方位で、以下の施策を実行していく。

<衣料繊維事業>

強みである原料から織物までの一貫生産による品質と技術を更に強化し、高品質・高付加価値・高機能商品の提供と積極的な海外展開を推進します。

<資材事業>

裾野の広い産業資材分野での成長を目指すとともに、差別化商品の提供と積極的な海外展開・M&A戦略により、事業規模の拡大を目指します。

<エンジニアリング事業>

設計能力と商品開発の強化、積極的なM&Aを推進し、事業規模拡大と収益の安定化を目指します。

対処すべき課題

<開発事業>

グループ全体の資産の有効活用と価値向上を追求し、長期的な視点での「街づくり」開発を推進することにより、資産価値の向上を図ります。

<コミュニティサービス事業>

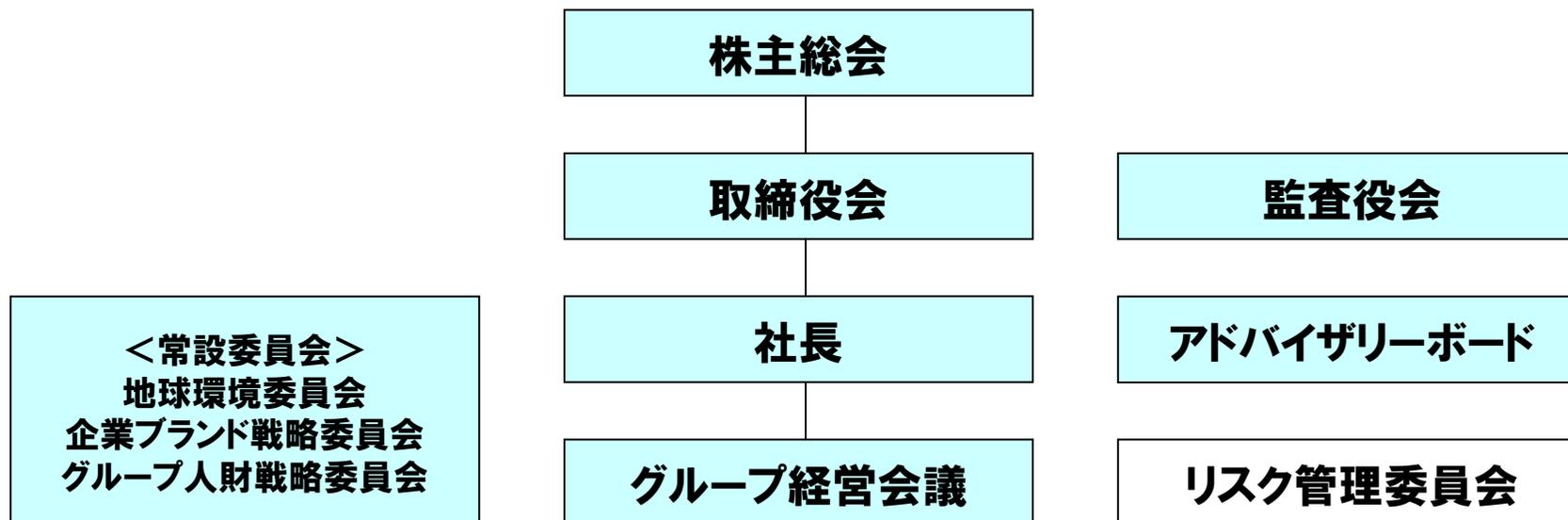
“コミュニティ＝地域社会”に貢献する独自の「ニッケのサービス」を創出・提供することにより、本格的なサービス事業の展開を目指します。

<生活流通事業>

戦略的ブランディングと生活文化を創造する商品開発によりその価値を高め、規模と収益の拡大を目指します。

激変する環境において、グローバル化に対応しながらニッケグループ独自の強みを発揮すべく、活力あるグループ経営機能の強化を推進し、上記施策の実現に向けて全力を挙げる。6事業領域・全方位で、限定せず、内向きにならず、外に向かうという方針のもと、生産性向上を最優先課題とし、顧客志向の仕組みづくり・新しい事業価値の創出・業務の効率化などに取り組んでいく。

コーポレートガバナンス



2001年 取締役会議長を代表権のない取締役に

2005年 役員退職慰労金制度を廃止

2003年 取締役の任期を1年に短縮

2006年 執行役員制度を導入

2004年 アドバイザリーボードを設置

2007年 社外取締役2名に増員

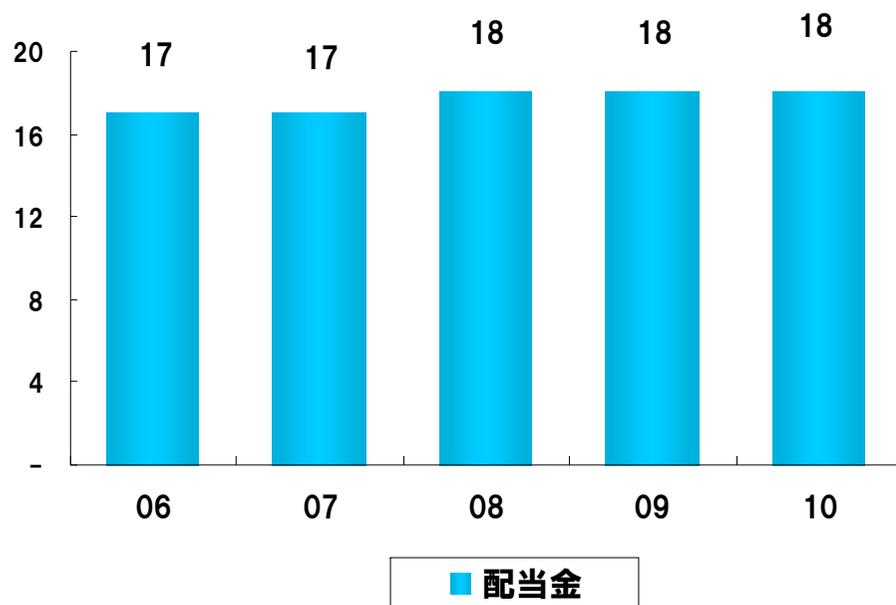
2009年 社外取締役3名に増員

株主還元方針

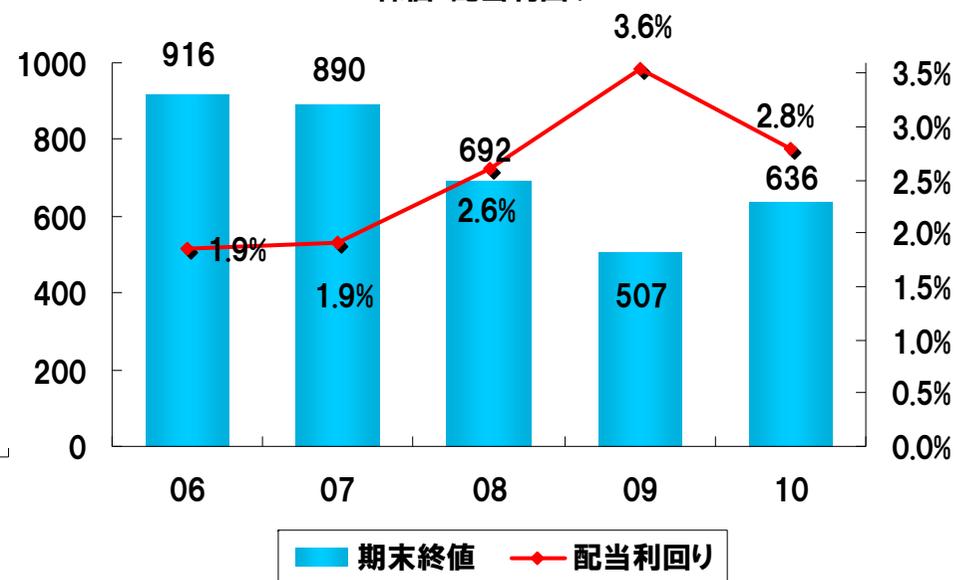
利益水準に応じて持続的に配当水準を引き上げていく。

次期についても、引き続き年間1株当たり18円を目標とする。

配当金の推移



株価・配当利回り



(参考) 羊毛相場・為替相場の推移

